



園だより

令和2年5月発行

合志こども園 園長 松岡 貴子

新しい生活スタイルを考えましょう

全国に出されていた「緊急事態宣言」も解除に向けて進んでいます。子ども達の感染拡大防止対策に、ご理解・ご協力いただき心より感謝いたします。

解除は「移らないという保証ではない」ことを忘れてはならないのが、「生活スタイル」の見直しだと思います。これまで当たり前だったことも、

「感染拡大に繋がらない」事を根底に生活全体を見直すことで、今後の自分自身の命を守ることに繋がっていきます。解除後も、大切な人・自分の命を守るために必要な行動をとっていけるよう、子ども達と【なぜそうしなければならないのか】を考え、園生活を送ってまいります。園関係者に罹患しなかったことがなにより嬉しい解除報告になりました。



梅雨入りを待ちながら、少し色づいてきました

令和2年度が始まり、感染対策に追われた4・5月でした。保護者の皆様においては、家庭保育協力や降園時間協力等子ども達の命を守るためご協力いただき感謝いたします。園では、向かい合っの歌を自粛したり、給食も机の配置や座り方を工夫したり、手洗いの徹底や検温と取り組みました。また、免疫力を高めるために、戸外遊びを多く計画したり保育内容も色々考えて、登園せざる得ない子ども達の健康管理に努めてまいりました。小中学校の休校解除に向け、園にも日常保育が戻ってくることでしょう。しかし、ここで気を緩めてしまえばこれまでの努力が無駄になってしまいます。密接状況を作らないことは園生活では難しいのですが、「どうやったら、少しでも密接を少なくできるか」を考えることで予防に繋がっていくと思われます。子ども達と共に考え、危機を乗り越える力【危機管理能力】を育てていきたいと思ひます。今後様々な事象に出会ったとき、乗り切っていくためどんなことが必要かを自分で判断できる力【自己判断力・自己解決力】を育てていくことが重要です。答えを教えると、その時は乗り切ることが出来ますが、次も答えを求めることとなつてしまい、子ども達の考える機会を奪ってしまう事となります。

学園では、教えるではなく、一緒に考えを見つけ出す経験を重ねることを大切にしています。そのため『言葉かけ』を重視しており、子ども達と関わる中で「どうしてだろうね」「どうしたらいいのかな」「なぜそうしなければならないのかな」「ためしてみよう」「見つけられたね」等先生が掛けている言葉です。これらの問いかけは、子どもたち自身が答えや方法を考え見つけ出していくことで、次の課題についても乗り越えていける力を育てて欲しいと願ひ取り組んでいひます。自分で決めたことに責任をもつことで、繰り返し守っていこう（取り組んでいこう）とする姿が見られます。

これこそが【問題解決力】の育ちとなります。

子ども達の笑顔が揃う来月が待ち遠しく、いろいろな体験・経験をとおして、『生きる力』を育ていけるよう職員一同関わっていきたくと思ひています。子ども達の成長を共感して参りましよう。

ほけんだより

6月のプール活動を前に、夏の感染症についてお知らせします。参考にされて早めの対応・受診に取り組んでください。また、耳・鼻・目・皮膚症状においても自己判断してしまうことで、長引かせてしまうこともあります。早目の対応をお願い致します。

先日、アデノウイルスによる感染：咽頭結膜炎（プール熱）報告を頂きました。園内流行している状況ではありませんが、これから梅雨入りや夏本番に向けて流行する病気もあります。体調を崩すと罹りやすくなる場合がありますので、「早寝・早起き」を更に取り組んでいきましょう。また、エアコン等を使って「環境」を整えることも取り入れていきましょう。

★気をつける夏の感染症

感染症名	原因	症状	対応
ヘルパンギーナ	コクサッキーウイルスA群などに飛まつ感染することで発症	高熱、のどの痛みが特徴。のどに水ぼうや潰瘍ができて痛みがひどく、乳児の場合はミルクがのめなくなるほどに。	のどの痛みは、熱が下がってからも続くことがある。熱やのどの痛みがあるうちは、安静に過ごすように。
咽頭結膜炎： プール熱	アデノウイルスによる飛沫感染。目やにや便からうつることも。プールの水を解して感染することがあるので「プール熱」と呼ばれる	39℃以上の発熱とのどの痛みがあり、目のかゆみ、痛み、充血、涙など、結膜炎のような症状がでるのが特徴	感染したら、症状がなくなってから2日経過するまでは登園停止。自宅で安静に過ごすように
流行性角膜炎 (はやり目)	目とまぶたの裏側を覆っている結膜にアデノウイルスが感染して起きる炎症。ウイルス性の結膜炎の中でもっとも感染力が強く、プールの水だけでなく、タオルの共有や手指の接触によっても感染する。最近は季節に関係なく発症する傾向がある	まぶたのはれや異物感、痛み、充血。目やにで目が開けられなくなったり、発熱や下痢を伴うこともある	完治まで2～3週間かかり、発病から2週間は登園停止。感染予防のため、こまめに手を洗い、タオルの共有は避ける
手足口病	コクサッキーウイルスやエンテロウイルスによる飛沫感染	手のひらや足の裏、口の中に小さな水泡や赤い発疹ができ熱が出ることも	3～5日で治る。元気があれば登園できるが、まれに髄膜炎などの合併症を起こすことがあるので、頭痛や嘔吐を伴う発熱が3日以上続くときには直ぐ受診を。
とびひ	虫刺されや湿しんをかきむしったあとに黄色ブドウ球菌などが感染して起こる。症状がどんどん広がっていくことからこの名称で呼ばれる。皮膚が弱いとかかりやすい	皮膚に水ぶくれができ、破けて赤くむけたような状態になる。発熱することも	主な治療法は抗生物質の使用だが、衣服を清潔に保つこともたいせつ。患部をガーゼなどで覆って登園するように。また、患部がじくじくしているときは症状が悪化しやすいので、プールは避ける。シャワーを浴びる程度は可。
水いぼ	ポックスウイルス群が原因。タオルやビート板の共有、体の接触などで感染する	粒大のいぼが胸や腹、わきの下などにできて広がる。	完治まで半年から1年半程度かかる。自覚症状がなければ治療は不要。肌のバリア機能が低下しているときや、かゆくてかきこわしてしまうようなら、医師と相談の上、いぼを取ったり、薬による治療を行なうこともある。